

### 3-4. 特定非営利活動法人 いろは企画（栃木県真岡市）

#### (1) 地域の概要

---

【人口】

80,782人

【地勢】

栃木県南東部に位置し茨城県と隣接する内陸地

【面積】

167.21 平方キロメートル

【気候、自然】

内陸型気候に近い湿潤温帯気候の太平洋側気候区 寒暖の差が大きい

【歴史】

旧石器時代より人が住み、芳賀地域の中心として栄え江戸時代には木綿産業が発達した。現在は大規模な工業団地を有する。

【観光】

井頭公園、真岡鐵道、大前神社、いちご

【地域資源の概要】

いちごの生産量日本一、真岡鐵道 SL 運行、日本一えびす様

#### (2) アドバイザー派遣申請の背景

---

##### 1) アドバイザー派遣申請の背景

真岡市は今までに農業と商業が盛んな為、観光に力を入れてこなかった。観光に注目し活動を始めたのは4年前からである。当該地域では今までにエコツーリズムに関する取組は全くされていない事と、基本的なエコツーリズムの認識が不足している為、アドバイザー派遣事業を行った。

##### 2) これまでの取組

地域環境の保全に対する活動として、竹林の整備・鮭の稚魚の放流などは行ってきたが、いかに人に周知させるのが課題。

### (3) アドバイザー派遣の概要

|           |   |  |   |
|-----------|---|--|---|
| 日         | 時 | 平成 26 年 12 月 4 日 (木) ~ 5 日 (金)                   |   |
| 場         | 所 | 栃木県真岡市<br>根本山、青谷地区、(株)トヨタ、五行川鮭の孵化場、益子焼つかもと、イチゴ団地 |   |
| ア         | ド | 株式会社 オズ 代表取締役 江崎 貴久 氏                            |   |
| 参         | 加 | 者  | 合計 15 名   |
| スケジュール・方法 |   |  | <b>【1日目】</b><br>・開校式<br>・視察：根本山自然観察センター、青谷地区、(株)トヨタ<br>・意見交換会<br><b>【2日目】</b><br>・視察：鮭の孵化場、益子焼つかもと、イチゴ団地<br>・講義 |

### (4) アドバイスの内容

#### 1) 講義

プログラム名 『幸せになれる地域づくり』

現場からの意見

ガイドは基本的な技術は必要だが必ずしもしゃべる必要はない。

プログラム作りはイメージが重要。

個性・創造性を前面に押し出す。

毎日継続出来る事が重要。

マイナスの分野を作らない。

#### 2) 視察

##### ①根本山自然観察センター

何気ない風景も他にとっては価値になり得る。空が広い・山に入る事が出来る。

##### ②いちご団地

日本一のいちごで三流の食べ方をさせている。食べ方も一流に！高品質化を目指す。

#### 3) 意見交換会

真岡の根っこは何か？

真岡の魅力とは？モノではないもの。

真岡市の取組はどこを目指すのか？

今までの取組を整理する時期にかかっている。



根本山自然観察センター、自然観察指導員の案内で森の中を散策



(株) トヨタで企業紹介と工場見学



益子焼 つかもと施設内見学



講義

## (5) アドバイザー派遣実施の効果

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

#### ①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

・エコツーリズムに対する基本的な知識が得られた事や、真岡にはいくつも観光地があるが、連携しておらず一つ一つがばらばらだと気付かされた。

#### ②今まで課題としていたことがより明確になった

・エコツーリズムの実践法やどのようにプログラムを作るか。

#### ③今までの課題に対して取組方が分かった

・実際のプログラム作成の考え方。ばらばらになっている観光地を組み合わせ一つのものにする、又、取りまとめるガイドがないのでガイドの育成

#### ④今までとは別の課題が明らかになった

・いかに地域の個性や創造性を出せるか。都心からのアクセスが良くなった事や、日帰りができる気軽さを活かし、受け入れる母体ができたら、いかに周知させていくかが課題である。

#### ⑤その他

- ・行政と民間でより具体的な話し合いができた。

## 2) 今後期待される効果

今までばらばらに活用していた地域資源を組み合わせる事により、地域の魅力を十分に引き出せるようになる為、地域の活性化と環境保全への活動が活発になる。

## 3) 今後の取組

- ・地域で活動している各団体に声をかけ、地域の資源活用に向けたプラットフォーム作り。
- ・エコツーリズムのプログラム作り。

## (6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

---

### 1) 参考となった事項

海島遊民くらぶ

### 2) その他感想

- ・実際に現場で活動している生のアドバイスを聞く事が出来た。  
地域資源を個別化せずに連携させ、『地域』という接点で行政と民間のそれぞれの役割を理解し利潤をもたらす。また、その地域資源とは何なのか、真岡の土台となる物を掘り下げて、何を持って成したいのかを考える。という基本的概念を教えて頂きとても参考になりました。
- ・エコツーリズムの取組事例、国策としての方向と地域の向かう所の考え方など、基本的な考え方を共有する事が出来た。

## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社オズ 代表取締役 江崎 貴久 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

これまで、エコツーリズムについての事前知識はほとんどなく、先行してどこかからの推薦やアドバイスがあったわけでもなかった。SNSでエコツーリズムを知り、興味を持ったことからの依頼であった。間接的な情報でも興味を持つことができたことがこの事業に対する国民の評価的な事例であり、エコツーリズムを推進する上でも貴重な事例であると思われる。ただ、エコツーリズムの要素はいたるところに見られるが、その概念がなかったために体系立てられていない状況である。

#### ア. 真岡市行政

観光産業としてはほとんど存在しておらず、農業や神社が観光要素を取り入れた付随的な観光である。環境保全の取組として、根本山を管理し根本山自然観察センターを設置、直接運営している。ここでは、職員が無料で自然解説や自然体験を実施している。これは、条例により管理運営が定められており、実質的なエコツーリズムの実践場所と言ってよい。

そんな中、宿泊施設の運営や観光拠点整備など、行政が観光に乗り出している理由は、観光産業そのものの発展というより、元から盛んな一次産業や工業をさらに活性化するためには地域と結び付けたり住民と結び付けたりすることの必要性を感じており、その手段として観光という切り口が適切であるとの方針に基づいている。そのため、現在は観光における中長期の計画はない。ただ、観光ネットワーク事業として2013年まで3年間区切りで2回、計6年間の事業を実施してきている。現在は終了し、それをもとに受け入れ態勢準備を行っている。この事業目的は、

- i 観光まちづくりのためのネットワークづくり
- ii 市民参加のための啓発
- iii 事業展開のアイデア出し

であった。それをもとに観光協会を窓口の商品開発がされている。しかし、ツアーメニューについては、現在のところ定番のものではなく、イベント時にのみネットワーク事業で活動を始めた人々がガイドツアーを実施し始めたところである。

#### イ. 真岡市観光協会

真岡市観光の中心は、「とちおとめ」・「SL」・「真岡木綿」であるが、今後「人」や「歴史・文化」に見られる真岡市の魅力を活用していきたいと望んでいるようである。

その情報発信基地として中心市街地に「久保記念観光文化交流館」が2014年10月23日にオープンした。敷地内には久保貞次郎氏の紹介や貴重な資料の展示や観光案内所・特産品の展示・紹介スペースもある「久保記念館」は昔の日本銀行宇都宮代理店真岡出張所真岡支金庫を移築している。その他、「美術品展示館」や真岡市の特産品や加工品の物販コーナーである「観光物産館」、「まちづくりセンター」やフレンチレストランも併設している。

また、観光協会組織を再構築し、現在は市役所内からこの観光文化交流館へと移転し活動が始まっている。

#### ウ. NPO法人いろは企画

真岡市観光のアドバイザー的な存在でもある方々が設立・運営している観光まちづくり団体である。理事長である柳田氏は大前神社の神主さんで、地域内で住民が求める活動をこの団体を通して支援している。鮭の孵化場の維持や森林の多面的機能活用の促進、尊徳ファームでの農作物や加工商品開発など多岐にわたった活動を行っている。特に観光集客面では、真岡市民であり隣接町益子町最大の益子焼製作販売会社「つかもと」のゼネラルマネージャーである福島氏が、この団体の理事を務めながら、これまでのノウハウを生かして真岡市の観光を進める上での指南役を果たしている。

#### ②課題

観光への取組が最近行われるようになった市であるため観光地ではなく、受入体制も企画も初期的な段階である。これまでのワーキングではブレインストーミングが実施されてきているが、行政主導でのマーケティングの観点での取りまとめに留まっている。そのため、特産品開発やイベントといった、商品化が可視化しやすいものはマーケティングの道筋に沿って振興されやすいが、地域資源の保護活動そのものが観光資源化されるような持続的な地域活性化に必要な地域資源のマネジメント（資源の保護と活用、地域の課題解決の仕組み）と一体化した新たな商品開発手法には着手されていない現状がある。今後は、持続可能な地域振興における観光戦略と計画を明確にする必要があり、観光協会やその他の民間のアクションの道筋をリードする必要がある。取組の全体像が明らかになれば、各種団体・個人の活動も戦略的となり、地域活動における労力のロスが軽減されると推測される。

特に、いろは企画での数多く取り組まれている資源管理に関する事業は、商品開発の場と資源管理の取組の場がリンクされていないため、本来、地域マネジメントやエコツーリズムの基盤であり、地域内でとても重要であるにもかかわらず補助金が終了するとともに継続が困難な状況に陥ってしまっている現状がある。これは、保護や管理業務で得られる貴重な価値のあるデータや専門性を、収益を生む具体的な企画にアウトプットする仕組みを構築すれば継続できる可能性も高

くなる。こうした基盤的な取組は、特産品の背景にある魅力や現時点でまだ発見していない地域資源の掘り起こしに大きく関わりをもつものである。地域の根幹に関わるこのような民間の保全活動を自立に近づけていくためには、あらゆる地域資源や取組が観光資源となりうるという発想のテクニックを地域に根付かせる必要がある。そして市民活動とも連動できる観光を進めるために、エコツーリズムを理解した上で、地域経営の観点から「資源に責任を持つ観光のあり方」としてのステップに立っていただく必要があると思われる。

### ③実践する主体

今回の視察アテンドを行ってくれたNPO法人いろは企画は、エコツーリズムの実践可能な団体である。外部要因として、真岡市行政も現在観光に力を入れつつあり観光のマーケティングとマネジメントが計画できれば、協力体制が可能になると思われる。内部要因としては、事業基盤を確立する取組が必要である。拠点・多様な人材・多様な資源はそろっているの、それらを位置づける事業方針や戦略があれば、多様な事業の経験も技術や能力の蓄積となり、団体として持続的な発展が期待できる。それにより、資金調達能力を高め自立も可能である。

## 2) 特に魅力を感じた地域資源等

### ①魅力を感じた地域資源

#### ア. 朝、広大な黒々とした畑から水蒸気が立ち上る様

時期・時間限定で、特別感のあるツアーが可能。大地への感動も大きい。関東平野の違った顔が見える。



#### イ. 野菜畑と地元野菜を使った普段の食文化

広大な畑では、様々な種類の作物が育てられており、時期的には枯れた作物の畑であったが、そんなものの形がわからない作物さえ、多様性に富んでいた。



歩いて見えた範囲だけでも「この作物はなんでしょう？」とクイズができそうなイメージが湧いた。また、イモフライやビルマ鍋など、野菜をふんだんに使った大人数で楽しめるメニューは実際のプログラムでも活用できる。

#### ウ. 鮭の孵化場

自然の豊かさの象徴であり、循環と命を感じることができる感動がある。施設は手作り感があり大きなものではないからこそ、地域の愛情と努力に共感できる。設置されているソファやストーブ、管理当番表など、インテリアにコミュニティ感があり、人を招き入れるにも地域の温かみを感じられる雰囲気がある。収益を生まないと今後の存続が懸念される。



鮭の孵化場 孵化する前の卵の様子



施設内の風景

#### エ. 根本山

落葉樹のなだらかなフィールドで、高齢者にも幼児にも歩きやすい地形で幅広いターゲットに向けたエコツアー展開が可能である。このフィールドを管理している根本山自然観察センターは市の運営で行われており、同センターの職員がイベント行事で様々な体験プログラムを実施している。

前述したように、条例により運営についての規定があり、有料ガイド等の商業的な活動が禁止されているわけではないが、このフィールドを活用して今後エコツーリズムを実践する市民や団体が有料のプログラムやガイドングを行うには、行政内での調整が必要である。しかし、その影響を多面的に考慮した上で広く常時に活用できる場にすることは可能であり、この根本山の活用方法に伴う管理システムを再構築するためにかかるコスト以上に、地域への経済的・文化的・教育的効果を生み出すことができると思われる。



根本山 視察の様子



## オ. 歴史・文化と大地の関係

自然史に基づいた歴史・文化は、今回視察していないが、歴史的建造物の資材となっている石材や隣接する益子町の益子焼にも見られるように大地や地質とも密接なかわりがあると思われる。

### ②上記地域資源に魅力を感じた理由

- ・観光資源化が比較的簡単に可能である。
- ・活用するために、非常な努力や能力を要することではないので、誰にも参加できるから。
- ・広々とした平野と水の豊かさ両方が揃っているからこそ、生み出される魅力と真岡市の住民の人柄で、真岡市だからこそ伝えられるメッセージがそこに現れていると感じたから。
- ・地理・地形から生み出される特有の自然と人柄は、その後の特産品や観光商品のブランディングに広く活用できる。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

ベースは、当社「海島遊民くらぶ」の事例紹介とともに。

- ①観光とは：「観光立国推進基本法」「らしさとならでは」
- ②エコツーリズムとは：「エコツーリズム推進法の概要」
- ③プログラム作りの概要：プログラムの起点、経済効果とルール作り
- ④地域貢献：島っ子ガイド
- ⑤地域の協力体制の必要性：地域のブランディング
- ⑥地域を巻き込む：目的設定、メッセージ、テーマ・コンセプト、ターゲット
- ⑦PR：2010年度信州DCキャンペーンを事例に
- ⑧エコツーリズム推進協議会の事例：鳥羽市エコツーリズム推進協議会
- ⑨全体構想について：国の役割、市町村の役割、メリット
- ⑩真岡市への課題とアドバイス

◆観光のメリット→地域の持続的発展のために◆

- ・地域の魅力を付加価値化し、新たな収入を増やす
- ・地域ブランディングで効果的な特産品の販促
- ・地域に誇りを持つ住民

【全体構想が認定されると可能になること】

- 地域資源の保護**  
これまで法的に保護措置が担保されてこなかった自然観光資源についても「特定自然観光資源」に指定することができます。
- 立ち入りの制限**
- 広報**  
国が、認定地域の取組みを全国にPRします。  
・エコライフフェア、ツーリズム EXPO ジャパン等イベント出展への優先的なご案内  
・マスコミ等の問合せや視察依頼に対し、先進地としてご紹介
- 特定事業者によるツアー参加者の認証**  
エコツーリズム推進協議会の構成員である特定事業者が、ツアー参加者に自然観光資源についての案内を行う場合  
**おまけ**○中心市街地において、自治体の実施する講習を受講すれば外国人の通訳案内が可能

観光によるデメリット  
・資源の乱用  
・安心・安全度の低下  
・物価の上昇

地域観光における規制  
・旅行業  
・運送法  
・通訳案内士

真岡市の観光の課題

|   |  |
|---|--|
| <p>民間事業者・NPO</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能性のためのシステム構築が必要</li> </ul>                                | <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真岡市で観光に取り組む目的と効果の指標を明確に。</li> </ul>  |
| <p>資金を生み出す力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品質向上と有料化</li> <li>・事業の発展・拡大のステップ<br/>→安心と意欲が持続する雇用</li> </ul> | <p>観光資源の商品化力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源→観光資源の活用ルール</li> <li>・共有できる目的、組織の役割分担<br/>→効率的な動きと効果的な集客</li> </ul> |
| <p>人材確保・育成</p>  | <p>地域資源の保護</p>   |

地域内のマネジメント機能・観光戦略 どこへ、どのように進むのか？

皆さんは、とても頑張っています。  
無いのは、目的地とその道のりが選択できる地図がないだけです。

「どこへ・何のために」＝目的  
「何を大切に・どんな道順で」＝戦略  
「どんな方法で」＝戦術

#### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

##### ①全体構想への取組状況について

現在は何も行っていない。

##### ②全体構想への意向について

今回初めて知っていただいたので、まだ顕在化はしていない。

##### ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

まずは、地域資源の観光資源化を通して民間のガイドを育成し、エコツーリズムを誰もが実践できる間口の広いものであることやそれに伴い地域がどのように変化するかを想像できる経験を共有することが必要。実体験に基づかない限り、全体構想は行政だけのものになりかねない。

#### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

ものづくり観光で集客実績を上げている益子町に隣接し、目の前をとおり過ぎる観光客を手探りで誘致している努力は、戦略的である。戦略を構築するには客観性が必要であるが、この外からの視点をもつ「よそ者」にあたる人材がマネジメントとマーケティングの知識を有することが強みになっている。この地域は都心部から比較的近い田舎暮らしが実現できるため、Iターン人材が集めやすいことも、客観的なエコツーリズムや観光地域づくりを進める上で強みとなっていくと思われる。

また、同時に住民は豊かな水資源となだらかな平野によって育まれた気質であり、これこそがこの地域の歴史を作ってきたことが感じられた。外部環境を把握し、新たに挑戦することにはっきりとした根拠がうかがえる点が感性の高い地域であると感じた。

現状の課題として、多くの事が同時進行で進んでおり、地域マネジメントが難しくなっている。現在、世代間や立場の違いで、個々には理にかなった戦略があるにもかかわらず、調整や共有ができていないために、現場で活動する人材が全体像を把握できず相乗効果を阻む原因となっている。これは、全体像を描いていないことに問題があると思われる。まずは、地域内の活動と戦略の整理が必要である。マネジメントは、観光からの観点だけではなく、地域経営の視点から行うことが必要である。観光と地域活動に境界線が薄れる今、地域の最大効果を上げるには地域内の自他の取組の把握や知識の共有が鍵となる。それにより、観光による地域活性化のロードマップと地域の総合的なロードマップが整合性のあるものになっていくと期待される。

具体的には、行政はこれまでのネットワークをもとに総合計画に則った観光の基本方針や計画を打ち出す時期に来ている。特に真岡市の場合は、観光産業の発展ではなく、元々ある産業と地域を結び付けることによる地域活性化を目的としている。その媒体が市民活動であり、市民参加によって暮らしも産業もともに豊かにしていく方針であるので、観光産業に軸を置いた観光の基本計画ではなく、まさにエコツーリズムの全体構想に構成されるような自分たちの地域資源を観光にどう活用すれば将来にわたり真岡市の豊かさを持続させ、膨らませることができるのかといった基本方針や計画がふさわしいと思われる。そのためには、市民参加で検討できる場が継続して必要であり、行政が設置する必要がある。そこに至っては、住民やこの地域に関わり真剣に生きる人々で構成され、「今見えているもの」から派生した単なる意見出しや多数決ではなく、計画策定を通してリーダーの人材育成をしていくチャンスとしていくことが望ましい。それにより、市民の役割を市民自身で明確に打ち出す機会にすることで、エコツーリズムによる地域の持続的な発展が期待できる。